

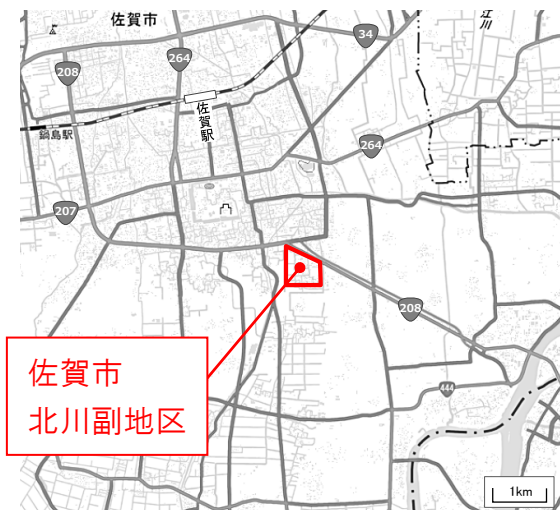
# オーバーレイでのハンプ施工



# 地元小学生を交えたイベントを実施



## 広域図



背景の地図の出典: 国土地理院

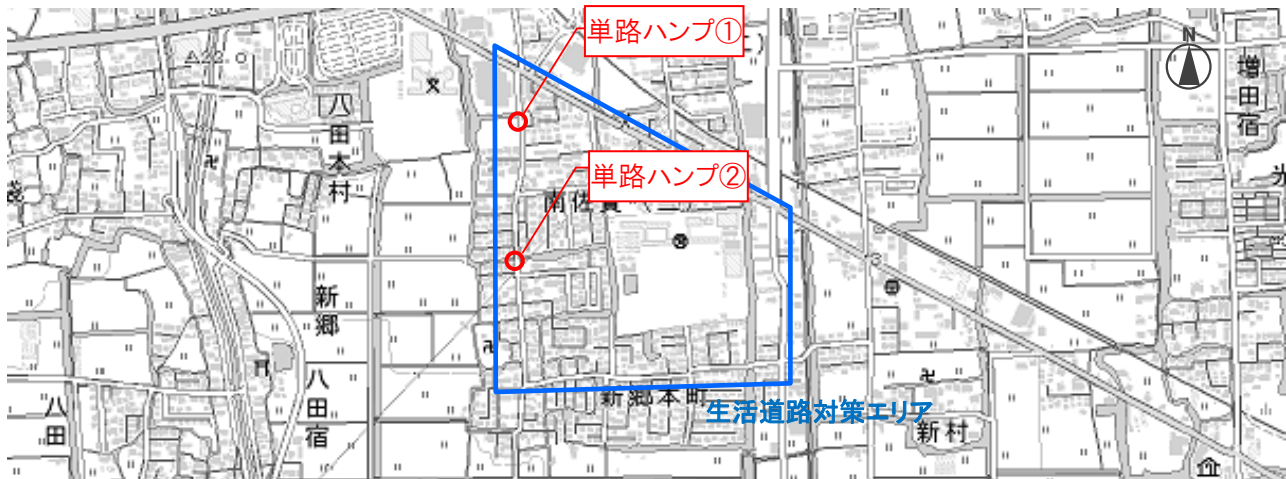
登録状況	生活道路対策エリア(区域)
対策の内容	ハンプ設置 他
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 県道 30 号と国道 208 号への抜け道利用が多く、特に朝夕の通勤時間帯で走行速度が高い</li><li>▶ 現道は道路幅員が 5~6m で一部歩道が整備されている</li></ul>

設置の  
特徴

## オーバーレイでのハンプ施工

## ハンプの概要

## 設置箇所



背景の地図の出典：国土地理院

## 設置内容

	内容	備考
設置箇所数	2箇所(単路部)	
設置時期	平成29年8月	
ハンプの形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦部の長さ 2m</li> <li>ハンプの高さ 10cm</li> <li>傾斜部の勾配 平均5%</li> </ul>	技術基準を参考
構造及び 付属施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>アスファルト舗装</li> <li>傾斜部のカラー化</li> <li>路面表示、ゴム製ポール</li> </ul>	既存路面切削なし
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆舗装内部への雨水の進入などのリスクを回避するため、切削せず<b>既設舗装の上にオーバーレイでハンプを施工</b></li> <li>◆切削なしの施工は、施工時間の短縮になった。また、将来的に撤去が必要となった場合も対応しやすい</li> <li>◆車道幅員が狭いため、<b>歩車道境界若しくは道路端の側溝上も併せてハンプとして嵩上げを行い、自転車通行に配慮</b></li> <li>◆車両の通行位置が明確になるよう車道部のみ着色した</li> <li>◆傾斜部はサイン曲線を意識</li> </ul>	

# 設置状況

単路ハンプ①



概観



切削なしで擦り付け(オーバーレイ)



ゴム製ポールと路面表示

単路ハンプ②



概観



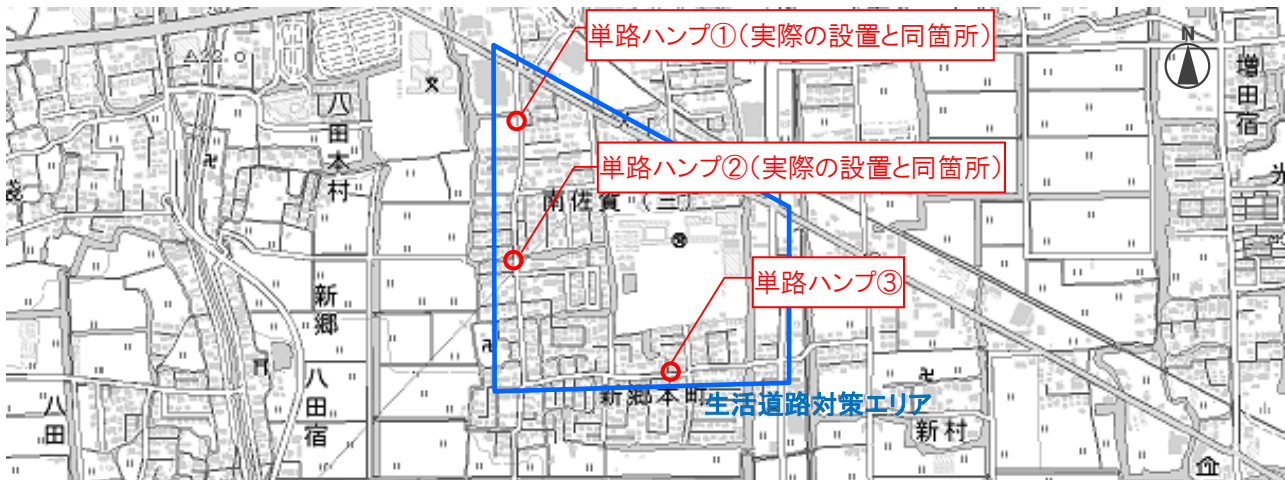
切削なしで擦り付け(オーバーレイ)



側溝上も併せて嵩上げ

## ハンプの概要【社会実験】

### 設置箇所



背景の地図の出典：国土地理院

### 設置内容

	内容	備考
実施箇所数	3箇所(単路部)	内2箇所は、本設置箇所と同様
実施時期	平成29年1月15日～2月17日	
ハンプの形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦部の長さ 2m</li> <li>ハンプの高さ 10cm</li> <li>傾斜部の勾配 平均 5%</li> </ul>	技術基準を参考
構造及び付属施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型ゴム製</li> <li>仮設看板、ゴム製ポール</li> </ul>	
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自転車通行位置の矢羽やゴム製ポールをあわせて設置することで、道路に狭さく効果を与えた</li> <li>◆本設置では、社会実験時に効果が発現した箇所へハンプを設置することを想定しており、3箇所に設置</li> </ul>	

設置状況【社会実験】

単路ハンブ①



概観



狭さを併用

単路ハンブ②



概観



狭さを併用

単路ハンブ③



概観



狭さを併用

合意形成  
のポイント

# 地元小学生を交えたイベントを 実施

## 対策実施状況と合意形成の概要

### 対策実施状況 (道路管理者の動き)

### 合意形成の概要

生活道路対策エリア登録 (2016.2)



社会実験 (2017.1.15~2.17)

・単路ハンプ 3箇所 他

設置 (2017.8~)

・単路ハンプ 2箇所 他

2016.9 住民説明会

- ・地域概要(事故、速度規制状況)
- ・現況調査結果(走行速度、抜け道利用状況等)

2016.11 第1回検討会

- ・検討会の目的、進め方の提示
- ・事故危険箇所の抽出



次回ワークショップの予習資料を配布し、対策への理解を深めた

2016.12 第2回検討会

- ・対策検討、対策メニュー案の提示
- ・社会実験の提案



社会実験に対する抵抗感を軽減するための資料(騒音、振動への対応)を作成し、問題が生じた場合は、すぐに撤去することを明示し、理解を図った



実験初日を地元小学生を交えたイベントとすることで、取組を周知し、地域住民の施工参加を計画


2017.3 第3回検討会

- ・社会実験の効果の共有
- ・対策案の決定



社会実験の結果は、狙った効果の発現状況の他、悪影響の有無をあわせて整理し、回覧資料として地域の全住民に配布

## PDCA の中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える合意形成のポイント 
<p>現況調査 計画策定 &lt;Plan&gt;</p>	<p>❖ 住民説明会                      実施日 2016年9月30日                      参加者 地域代表者、国交省、佐賀県、佐賀市                      提示資料 地域の概要、交通事故発生状況、速度規制状況                      現況調査結果(交通量、速度、抜け道利用、危険挙動等)、危険の要因と対策の整理、安全対策メニュー</p> <p>❖ 第1回検討会(ワークショップ)                      実施日 2016年11月13日                      対象者 地域代表者、国土交通省、佐賀県、佐賀市(事業者)                      内容 検討会の目的、進め方、危険箇所の抽出、安全対策メニュー</p> <p>❖ 第2回検討会(ワークショップ)                      実施日 2016年12月11日                      対象者 地域代表者、国土交通省、佐賀県、佐賀市(事業者)                      内容 対策の基本的な考え方、対策メニュー、社会実験案</p> <p>❖ 社会実験                      実施日 2017年1月15日~2017年2月17日                      内容 ハンプ(3箇所)、交差点カラー化(2箇所)                      自転車通行位置(矢羽表示)の効果検証</p> <p>❖ 第3回検討会                      実施日 2017年3月12日                      参加者 地域代表者、国交省、佐賀県、佐賀市                      提示資料 社会実験の効果の共有、対策案の決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民主体で検討を進めていくことを検討会前に合意した</li> <li>次回ワークショップの予習資料を配布し、対策への理解を深めた</li> <li>地域ごとに班分けを行い、地域代表者にコーディネータを依頼</li> <li>社会実験に対する抵抗感を軽減するための資料(騒音、振動への対応)を作成し、問題が生じた場合は、すぐに撤去することを明示し、理解を図った</li> <li>住民には、社会実験について直接協力依頼</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【各検討会の内容】</b>                      出典：佐賀国道事務所HP                      (生活道路の交通安全対策の進め方 北川副地区)  <a href="http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/site_files/file/pdf/practice_statement.pdf">http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/site_files/file/pdf/practice_statement.pdf</a></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験初日を地元小学生を交えたイベントとすることで、取組を周知し、地域住民の施工参加を計画</li> <li>社会実験による効果を把握するため、沿道のスーパーでヒアリングを実施</li> <li>社会実験の結果は、狙った効果の発現状況の他、悪影響の有無をあわせて整理し、回覧資料として地域の全住民に配布</li> </ul>
<p>対策実施 &lt;Do&gt;</p>	<p>❖ 本設置                      ・ 運用開始 2017年8月</p>	
<p>評価 &lt;Check&gt;</p>		
<p>対策改善 &lt;Action&gt;</p>		

## 合意形成における道路管理者からみた特筆事項

円滑な検討に結びついた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ワークショップ、アンケート、社会実験を経たことが、対策の円滑な実施につながったと考えられる。</li> </ul>
考えられる今後の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 他地区へどのように展開するかが検討課題ではあるが、市内の先行事例となったこの事例を説明等に活用し、ワークショップ、アンケート、社会実験等の中で簡素化できる部分を簡素化することで、迅速に交通安全対策を進めたい。</li> </ul>

参考資料：生活道路の交通安全対策の進め方【佐賀市北川副地区の取組み】 H29.3

URL: [http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/site\\_files/file/pdf/practice\\_statement.pdf](http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/site_files/file/pdf/practice_statement.pdf)